

全校朝会 校長講話

後期人権旬間にあたって（11月25日～）

デフリンピックで考える



熊谷市立富士見中学校
校長 田沼 良宣

東京 2025 デフリンピック



■ デフリンピック

- ・ 英語で「耳がきこえない」という意味の「デフ（deaf）」とオリンピックを組み合わせた「**耳がきこえない・きこえにくい人のためのオリンピック**」
- ・ 4年に1度、夏季大会と冬季大会を開催
- ・ きこえる一番小さな音が「55デシベル」 ※通常の会話がきこえない程度

■ 東京 2025 デフリンピック

4日後に開幕です！

- ・ 1924年の第1回パリ大会から**100周年の記念**すべき大会
- ・ 令和7年**11月15日（土）**～**26日（水）**



デフバスケットボール

丸山 香織 選手

熊谷市在住



3歳の時から音がきこえづらくなり、
現在は、ほとんできこえない。

- 福井県出身
高校時代 インターハイや国体に出場
- 高校卒業後 デフバスケットを始める
 - ・ U21デフバスケット世界選手権銀メダル
個人プレイヤーベスト5
 - ・ 2024 アジア大会 金メダル
個人プレイヤーベスト5

世界のトップ選手



デフバスケットボール体験会

体験会講師 丸山 香織 選手

女バスの希望者
参加！
10月26日（日）



- 約2時間、「会話をしない。声を出さない」というルールで練習を行った。
- 身振り手振りやアイコンタクトで自分の意思を伝える。

体験会に参加した
バス部副部長の
吉野さんに聞いて
みました！



- アイコンタクトが大切だと感じた。
- （普段も心がけているけれど）より周りを見なくてはならないと学んだ。
- バスケットだけでなく、人生経験としても参加してよかった。

ブラインドウォーク体験

ブラインドウォーク
写真

ブラインドウォーク
写真

- 2人1組で、1人がアイマスクを着用し、もう1人が、サポートする。

※サポートの仕方

肩やひじを軽く持たせる。半歩先を歩く。

- 校内（階段なども含む）を回り、役割を交代する。

ブラインドウォーク体験の**目的**は？



ブラインドウォーク体験

学んだこと

ブラインドウォーク体験の**目的**は？

恐怖心

- △ 目の見えない人の気持ちを体験する。
- 正しいサポートの仕方を学ぶ。

「正しくサポートできれば、視覚障害者も晴眼者と同じように生活することができる。生活を楽しむことができる」ということを理解することが、本当の目的です。

デフバスケットボール

聴覚障害のある選手が自ら行う工夫は？



手話やハンドサイン

少し離れたところにいる後ろ向きの味方にどう伝えるの？



「見てわかるコミュニケーションの迫力」を楽しんでほしい。



TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS

デフバスケットボール

選手をどのようにサポートするのか？

フラッグマン

審判の笛の音やテーブルオフィシャルのブザーの音などの代わりに、コートの上隅にいる人が旗を振り、コートやベンチにいる選手などに伝える。



写真: 競技団体提供

東京 2025 デフリンピック



選手をどのようにサポートするのか？

■ 水泳



合図棒で水面をはじいて、最後のターンを知らせる様子
提供：一般財団法人全日本ろうあ連盟

陸上

県ゆかりのデフリンピアン

門脇 翠（かどわき みどり）選手



東京 2025 デフリンピック



手話 理解の広がり 期待

(埼玉新聞)

- 国 「手話施策推進法」 令和7年6月
手話の普及や理解に向けた環境整備
- 熊谷市 「熊谷市手話言語条例」



- 個性や違いを認め、理解し、尊重する。
- 苦手なこと、できないことは誰にでもある。補い合い、助け合う。